

Economic Indicators

発表日: 2024 年 8 月 21 日(水)

貿易統計(2024 年 7 月)

～価格ベースが押し上げ高い伸びも、数量ベースでは伸び悩み～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額		輸入金額							
		アメリカ	EU	中国	アメリカ	EU	中国	アメリカ	EU	中国			
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
23年	6月	365	▲ 5,033	1.5	▲ 13.1	▲ 4.0	3.9	1.3	▲ 14.1	▲ 7.4	▲ 14.0	4.9	▲ 13.9
	7月	▲ 613	▲ 5,013	▲ 0.3	▲ 14.1	▲ 2.8	9.4	1.0	▲ 15.8	▲ 6.1	▲ 12.0	15.6	▲ 16.1
	8月	▲ 9,401	▲ 4,965	▲ 0.8	▲ 17.7	▲ 5.3	3.8	1.1	▲ 15.2	▲ 9.1	▲ 9.5	5.1	▲ 13.8
	9月	606	▲ 3,657	4.3	▲ 16.5	0.2	8.6	▲ 0.6	▲ 12.5	▲ 3.9	▲ 12.9	▲ 6.2	▲ 1.6
	10月	▲ 6,682	▲ 3,631	1.6	▲ 12.4	▲ 3.4	8.8	0.4	▲ 9.4	▲ 3.3	0.1	1.0	▲ 2.3
	11月	▲ 7,883	▲ 4,049	▲ 0.2	▲ 11.8	▲ 5.6	3.4	▲ 11.8	▲ 9.9	▲ 3.4	2.6	0.4	▲ 3.3
	12月	589	▲ 5,150	9.7	▲ 6.8	2.9	16.9	2.2	2.7	▲ 3.1	▲ 5.5	▲ 13.8	▲ 0.6
24年	1月	▲ 17,665	▲ 418	11.9	▲ 9.7	2.3	7.1	▲ 0.2	20.4	▲ 8.4	▲ 3.8	▲ 22.1	▲ 9.2
	2月	▲ 3,830	▲ 5,656	7.8	0.6	▲ 1.5	10.9	3.5	▲ 7.1	1.3	6.7	▲ 3.1	12.6
	3月	3,824	▲ 7,173	7.3	▲ 5.1	▲ 2.1	1.8	▲ 6.5	0.9	▲ 9.7	▲ 2.2	▲ 1.1	▲ 19.4
	4月	▲ 4,713	▲ 5,820	8.3	8.4	▲ 3.2	▲ 2.3	▲ 13.7	▲ 5.1	0.7	16.2	▲ 0.4	1.8
	5月	▲ 12,230	▲ 6,361	13.5	9.5	▲ 0.9	6.7	▲ 17.9	▲ 0.4	▲ 2.0	13.0	▲ 2.6	3.8
	6月	2,240	▲ 8,196	5.4	3.2	▲ 6.2	▲ 2.9	▲ 20.1	▲ 8.9	▲ 8.9	5.1	▲ 5.9	▲ 5.6
	7月	▲ 6,218	▲ 7,552	10.3	16.6	▲ 5.2	▲ 5.0	▲ 13.8	▲ 10.9	4.4	▲ 0.3	▲ 3.0	13.7

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易収支(季節調整値)は赤字基調が継続

財務省より発表された7月の貿易統計では、輸出金額が前年比+10.3% (事前予想コンセンサス: 同+11.6%)、輸入金額が同+16.6% (事前予想コンセンサス: 同+15.0%)、貿易収支は▲6,218億円の赤字(事前予想コンセンサス: ▲3,591億円の赤字)となった。輸出、輸入ともに、円安を背景にした物価上昇を反映して価格ベースが押し上げ(輸出価格+12.3%、輸入価格+13.3%)、前年比2ケタ台での高い伸びとなった。

季節調整値では、輸出金額が前月比+1.7% (6月: 同▲0.2%)、輸入金額が同+0.9% (6月: 同+1.7%)となり、貿易収支は▲7,552億円の赤字(6月: ▲8,196億円の赤字)となった。7月は輸出金額の伸びが輸入金額の伸びを上回ったことで、貿易赤字は前月から縮小した。もっとも、後述の通り、物価変動を除いた実質(数量)ベースの輸出は伸び悩んでおり、依然として高水準の赤字基調が続いている。先行きについても、足元での円安修正を反映して輸出価格、輸入価格ともに伸びを切り下げるなかで、国内外の財需要の弱さを反映して貿易収支は赤字基調が続くだろう。

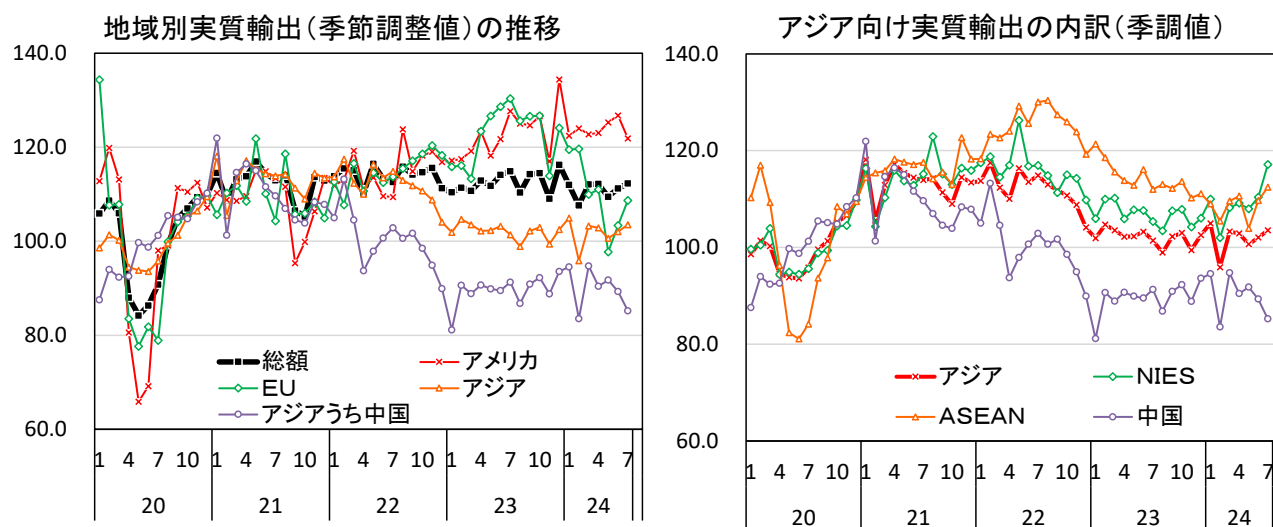
○7月の実質輸出は前月比プラスも、内容は弱い

物価変動の影響を除いた実質輸出をみると、前月比+1.0% (6月: 同+1.6%)となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。地域別にみると、米国向けが前月比▲3.8% (6月: 同+1.2%)、欧州向けが同+5.1% (6月: 同+5.8%)、アジア向けが同+1.5% (6月: 同+1.4%)、アジア向けのうち中国向けが同▲4.6% (6月: 同▲2.7%)となった。

7月の実質輸出は前月比プラスとなったものの、内容としては弱かった。欧州向けは前月比で高めの伸びとなっているが、5月の急減（同▲12.0%）の反動が6月、7月に出ているものであり、均せば減少傾向が続いている。米国向けは、主力の輸送用機器（対米国前月比▲8.2%）が急減したことで4か月ぶりに前月比マイナスとなった。4-6月期は自動車生産の再開を反映して堅調に推移していたものの、6月以降は不正認証問題による再びの自動車減産に加えて、需要自体の一服感も強まっているとみられる。長らく低迷が続く中国向けについても、4-6月期（前期比▲0.5%）に2四半期連続でマイナスとなった後、7月も一般機械（対中国前月比▲5.9%）や金属製品（同▲18.6%）などで減少した。

主要な輸出先が落ち込む中で、中国を除いたアジア向けについてはこのところ底入れの兆しがみられる。中国除くアジア向けは4-6月期に前期比+1.0%と増加した後、7月も前月比+4.5%と好調さが続いた。特にNIES向け（前月比+6.1%）では、半導体等電子部品（電子機器）を中心に持ち直しの動きが強まっている。

先行きも、足元での世界的なハイテク需要の回復を反映して、電気機器（半導体等電子部品など）や一般機械（半導体製造装置など）の生産計画は強いことから、これらが輸出の一定の下支えとなるだろう。もっとも、米国、欧州の景気減速感の強まりや自動車需要の一巡によって、実質輸出の下押し圧力は強い。足元の円高も輸出にとっては向かい風であることから、7-9月期も伸び悩みが続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。